令和3年度 学校評価総括表　（徳島県立板野支援学校）

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
(2)児童生徒に応じた教育活動の充実 R3: 障がい特性に応じた授業改善や特別支援教育の推進	（教務課） ① GIGAスクール構想を推進していくため、教育課程～ICT活用の検討を行う。	① ICT活用を前記した年間指導計画案を令和3年度に実施している各学部の全教育課程について作成する。	・各学部でタブレット端末活用実践表を作成し、1月末までに1学期分まで記入終了予定である。2月に教務課での検討会を実施し、3月中に来年度の年間指導計画案を作成予定である。	（評定）B （所見） ・1月21日時点では、計画の方策①-1の通中である。各学部での周知は実施しており、1・2学期分について各学部の各学級や学習グループの提出（入力）は完了している。今年度各学級や学習グループでの実践を一覧表にすることによって、教員個人が持っているノウハウを共有したり、学習の発展につなげたりすることが可能になったと思われる。 ・方策①-2については今後実施することになるが、各学部において、学部や学級及び学習グループの実態に応じたタブレット端末の活用・実践の報告がとがっていることから、他教科等への活用や「主体的な学び」を意図した指導計画が立案できると考えている。	・今後もICT活用は教育の開発や検討が必要でしょうから、実践例は貴重な資料ですので、その際ですが、実践の共有の「しやすさがあるい」は「しにくさ」等の要件について分析をしておくと活用に向けて有用となります。 GIGA構想実現のための生等の専門家との連携はできないか。	・今年度作成した年間指導計画を基にした実践及び、各学部や他校の取り組み等を共有し、活用していくことが課題と考えられる。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 各学部の全学級→HRを対象に、ICTを活用した授業実践について毎月記入してもらい、学期に1回すつ提出してもらう。 ①-2 授業実践を各教育課程毎にまとめ、教務課で検討後、3月中に次年度の年間指導計画案を作成する。	①-1 各学部や学期末ごとに教員への周知を行い、記入を促した。それぞれの学級またはは学習グループごとに1・2学期分を記入済みである。3学期分は1/31締め切りとしている。 ①-2 2月に教務課での検討会を実施し、3月中に来年度の年間指導計画案を作成予定である。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
(2)児童生徒に応じた教育活動の充実 R3: 障がい特性に応じた授業改善や特別支援教育の推進	（研究課） ① 特別支援教育研修会や教師研究、専門家によるコンサルテーションを計画し、運営実施することによって、障がい特性に応じた授業改善を図る。	① 学校全体や障がい種別の特別支援教育研修会、外部専門家によるコンサルテーションを、自立活動第6特別支援部と連携して計画し、10回以上運営を実施する。 ② 各学部においても、集団、障がい種別、グループ化しての学部全体で、学部の目標に応じた事例研究や研修会を3回以上実施し、障がい特性に応じた授業改善を図る。 ③ 学校全体と各学部別に専門の指導計画に関する研修会を2回実施し、新重式作成手順や活用方法について共通理解を図る。	① 特別支援教育研修会やコンサルテーションを7回実施した。新型コロナウイルス感染症の影響で年度当初計画していた研修会すべては実施できなかった。 ② 各学部において事例研究や研修会を小学部では7回、中学部では10回、高等部では2回実施した。 ③ 学校全体と各学部別に個別の指導計画に関する研修会を2回実施した。	（評定）B （所見） ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大影響により、年度当初計画していた研修会やコンサルテーションがほとんどもののもあったが、リモート通信利用に計画変更することにより実施できたものもあった。 ・外来者よりも、自立活動第6特別支援部と連携して計画運営することで円滑に校務を進行できた。 ・学部を超えた特別支援教育研修会は、障がい特性の理解や支援方法が教育実践にいかせる内容であった。	・多くの研修を精神的に余裕で実施できている。リソースですが国特総研やNITSのコンテンツなどを積極的にはりはどうか。 ・授業改善のための研修会、事例研究、コンサルテーションが効果的に行われている。さらに積極的な外部専門家との連携をすすめてほしい。	・効果的、効率的な研修を実施するため、総合教育センター特別支援センターの活用も検討してはどうか。 ・次年度も特別支援センターコンサルテーション事業を活用する。事例研究を学部で実施し、専門家の指導助言を受け、合理化を図り、専門性と指導力の向上を図る。 ・コンサルテーションの校内担当リーダーや研修会を伝講師を行うことができる教員が増えており、専門性のある教員の育成が課題である。 ・個別の指導計画についての研修会を年度当初に学校全体と各学部別に実施することにより、児童生徒の実態に応じた目標立案と客観的評価を行い、授業実践ができている点共通理解を図ることが次年度以降も課題である。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 年間を通して、総合教育センターの特別支援教育に関するオーケーニングを活用した自己研修を実施する。 ①-2 社会人講師のPT、ST、OTによる研修会や、外部専門家による特別支援教育研修会を4回以上実施する。 ①-3 中学部において、特別支援学校コンサルテーション事業を活用した研修会を2回実施する。 ①-4 小学部において、特別支援学校教育等の指導コンサルテーション事業を活用した研修会を2回実施する。 ①-5 コンサルテーションでは、円滑に運営できるように教育委員会や外部専門家との連絡調整を行う。また、各事例のサポートや、全体研修会の計画及び運営を実施する。 ①-6 東京体育中に、東京オリンピック・パラリンピックに関する自己研修を実施する。 ②-1 小学部においては「自立活動」に関する事例研究を3回以上実施し、授業改善を図る。 ②-2 中学部においては「学部全体で取り組むポジティブな行動支援」に関する事例研究を3回以上実施し、授業改善を図る。 ②-3 高等部においては「道路指導」に関する研修会を3回以上実施し、授業改善を図る。 ③-1 個別の指導計画の新書式改善点や作成手順について、学校全体の研修会を1回実施し、共通理解を図る。 ③-2 個別の指導計画の学期別・教育課程別・学習グループ別の記入方法や活用について、学期別の研修会を1回実施し、共通理解を図る。 ③-3 個別の指導計画に関するケース会を4回実施し、授業実施につなげて共通理解が図れるようグループチーフと連携してサポートを実施する。	①-1 年間を通して、オーケーニングを活用した自己研修を実施した。 ①-2 社会人講師や、外部専門家による特別支援教育研修会を7回実施した。 ①-3 特別支援学校コンサルテーション事業を活用した研修会を2回実施した。 ①-4 新型コロナウイルス感染症の影響で、特別支援学校教育等の指導コンサルテーション事業を活用した研修会は中止となった。 ①-5 教育委員会や外部専門家との連絡調整を行い、リモート配信を利用したコンサルテーションを2回実施した。また、各事例研究のサポートと全体研修会等を7回実施した。 ①-6 東京体育中に、オリンピック・パラリンピックに関する自己研修を実施した。 ②-1 小学部において「自立活動」に関する事例研究を3回実施した。 ②-2 中学部において「学部全体で取り組むポジティブな行動支援」に関する事例研究を7回実施した。 ②-3 高等部においては「道路指導」に関する研修会を6回実施した。 ③-1 個別の指導計画の新書式改善点や作成手順について、4月に学校全体の研修会を1回実施した。 ③-2 個別の指導計画の学期別・教育課程別・学習グループ別の記入方法や活用について、5月に学期別の研修会を1回実施した。 ③-3 グループチーフを中心とした個別の指導計画に関するケース会を、前・後期の立案時と評価時の4回以上実施した。	（評定）B （所見） ・新型コロナウイルス感染症予防のため、実施できない研修等も多かった。可能な取り組みの中で、各学部・寄宿舎における共通したテーマで取り組んだ。 今後も一貫性のあるキャリア教育を推進していきたい。	・研修では、毎年ながら、外部の事業所の内容を絞ることや福祉の制度についてニーズが高く、それに応えることができたと感じた。保護者にも生徒にも継続して研修機会を設け、続けていきたい。次年度も、さらなる活用内容の工夫と検討し、発展的なものとするためにも連携協力協議を深める。

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
(3)保護者や関係機関等と連携した教育の推進 R3:地域の学校、事業所に広じた教育相談やキャリア教育の推進	（道路指導課） ① 各学部、寄宿舎、保護者と道路に関する情報や資料を提供する為進路研修・事業所情報提供説明会・生徒の体験活動を行い、アンケートを実施する。アンケート項目の5/6「情報や体験が進路選択、指導に役にたつ」という項目で肯定回答（点数化：6分の5以上得る。情報提供等で参加した事業所にも、アンケートを実施し、今後の進路方法等検討する。	① 教職員（各学部・寄宿舎）や保護者対象研修は、年間7回以上実施する。（他の事業や資質、障がい福祉や障がい者雇用関係法規、事業所関係情報提供研修・説明会） ①-2 児童生徒対象の体験活動（ショートジョブ・生活プロジェクト）を年間合計10回以上実施する。	・児童実習以平均約57%であった。（肯定）/母にカコ「有意義だったという評価のアンケート割合（進路指導部会100%（3）/ 3）・福祉サービス利用研修会83.9%（17 / 19）・施設・事業所説明会 100%（20 / 20）。	（評定）A （所見） 新型コロナウイルス感染症予防のため、実施できない研修等も多かった。可能な取り組みの中で、各学部・寄宿舎における共通したテーマで取り組んだ。 今後も一貫性のあるキャリア教育を推進していきたい。	・学校運営協議会の意見にも「具福連携」がドックス、クールなどキャリア教育に関連深い活動があるので、分業として学校全体の教育活動としてとりまとめを検討してはどうか。 福祉サービス利用研修会には、活用がイメージしにくい部分があるかもしれないので年数回に分けての研修が効果的と思う。	・研修では、毎年ながら、外部の事業所の内容を絞ることや福祉の制度についてニーズが高く、それに応えることができたと感じた。保護者にも生徒にも継続して研修機会を設け、続けていきたい。次年度も、さらなる活用内容の工夫と検討し、発展的なものとするためにも連携協力協議を深める。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 教職員（各学部・寄宿舎）や保護者対象研修は、年間7回以上実施する。（他の事業や資質、障がい福祉や障がい者雇用関係法規、事業所関係情報提供研修・説明会） ①-2 児童生徒対象の体験活動（ショートジョブ・生活プロジェクト）を年間合計10回以上実施する。	①-1 保護者研修3回（進路説明会・福祉サービス利用研修会・施設事業所説明会）実施。 学部研修会等計4回（1学期2回・2学期3回実施。寄宿舎研修会1回）実施。⇒会計5回の研修を実施している。 ①-2 ショージョブ4回、生活プロジェクト7回 ⇒会計11回実施している。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
(3)保護者や関係機関等と連携した教育の推進 R3:地域の学校、事業所に広じた教育相談やキャリア教育の推進	（特別支援課） ① センター的機能における役割を充実させ、地域の幼小中学校等における特別支援教育の向上を図る。	① 巡回相談後の「相談シート（相談後）」の項目において「巡回相談を受けた対象の子どもに変化が見られたか」の質問に対し、7割以上の学校・園から「改善した」「少し改善した」の評価を得ることができる。	①-1 15校中11校から「改善した」と3校から「少し改善した」の評価を得ることができた。残り0・1校は対象の子どもに変化は見られなかったが、悪質が変わることができたの回答を得ることができた。	（評定）B （所見）巡回指導を行った全ての学校、園からは回答を得ることはできなかったが、ほぼ半数の学校、園から評価を得ることができた。 ・昨年度は相談シート（相談後）の返信は8校以下だったため、今年度は3倍以上のシートを受け取ることができた。 ・受け取った相談シート（相談後）を巡回相談員に見てもらうことで、巡回指導後にどのような変化が見られたか把握し振返りとなった。子どもや学校・園の具体的な対応策を巡回相談員にとって何よりの励みになった。	・相談後の状況や変遷等を伺いたいという気持ちが大くなるから、相談スキル向上のためにも大切かと思う。その重要性を相談の際に先方にも説明されているか。今年回答が増えたのはその影響もあるのだろうか。 今後の相談形式としてオンラインも視野に入れてはどうか。	・新型コロナウイルス感染症等対策として、巡回相談や出前相談等が制限に。来年度以降も、巡回相談や放課後等を利用した来校相談等も実施したが、道徳授業・生徒支援など、アドバイスしづらいこともあった。今後、感染拡大すれば、2020よりな巡回相談のあり方をさっていくかが課題である。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		①-1 巡回相談の「相談シート（相談後）」の項目に「対象の子どもに変化は見られたでしょうか」の質問を入れる。 ①-2 巡回相談後、相談員が対面にて入れたシートを手渡し、後日郵送していただくように伝える。 ①-3 .項目に対しての質問や疑問等があれば、電話やメール等で対応し、解決を図る。	①-1相談シート（相談後）の一番上の欄に質問と回答の項目入れた。 ①-2巡回相談員が相談日に封筒を手渡し、後日郵送していただくように伝えた。 ①-3特に質問や疑問等の問い合わせはなかった。			

重点課題	重点目標	評価指標	評価指標の達成度	総合評価	関係者評価	次年度の課題
(1)安心安全な学校づくり R3:学校保健・給食(医療的ケア等)や環境衛生等（感染症等）の推進	（保健課） ① 児童生徒の心身の状況を把握し、事故予防と安全対策の向上に努める。	① 医療的ケアの実施にあたって担任との共通理解（年度当初に1回以上） ② 医療的ケアワーキンググループ（月1回以上） ③-1 インテンシ期当会（7月、12月） ③-2 緊急対応訓練（全学部2事例） ③-3 救急法実技研修（動画を活用した自己研修） ④-1 環境衛生検査 ④-2 プール清掃、水質管理 ⑤ 感染症予防研修 ⑥ 災害時の薬の準備（年3回希望調査を行い、同時に薬の使用期限も確認する）	①年度初めに担任・看護師・養護教諭で医療的ケアの実施について話し合った。また、必要に応じてその都度共通理解を図っている。 ②医療的ケアワーキンググループを月1～2回実施し、医療的ケアの実施状況について確認している。 ③-1 事故防止や緊急対応の研修を予定どおり実施した。 ③-2緊急対応訓練は、実施しなかったが、他の検査は予定どおり実施した。 ④資料提供をしていただき、各自で研修した。 ⑥災害時の薬を整備し、学期ごとに予定どおり再確認した。	（評定）B （所見） ・医療的ケアについては、安全に正確に円滑に進めるよう、校内で話し合う機会を持ち、共通理解を深め、協力体制を整えていることにより、無理のないスケジュールのもとで安全に実施できている。 ・緊急対応のために、事前に場面設定をした訓練を行うことにより、実際の救員の動きが確認でき、1年を通して、協力体制が見っていると、事故防止のため、インシデントがあれば、事例を共有し、同じような事故が再発しないよう教職員間で情報を共有している。 ・コロナウイルス感染症予防の対応ができるよう、本校では、標準予防策を基本とした感染症対応を教員に呼びかけ、それぞれが実践した。それによる必要な使い捨て手袋や使い捨てエプロン、フェイスシールド、消毒液などの物品を整備できた。 ・災害時の薬について、保護者の希望を確認し、希望者には通学がはんに1日分準備できるよう整備することができた。また、学校ごとに定期的に保護者に確認することにより、薬の変更に対応することができた。	・令和3年から5年度にかけて重点目標の一つの柱を中心的に担って起り、非常に多様な業務に渡り活動している。 インシデント事例を共有は重要であるが、その前のヒヤリハット事例を収集することも重要である。	・コロナウィルス感染症予防のため、大人数での研修が実施できなかったが、中いかに効率的に研修を実施できるかの具検討していく必要がある。 ・災害時の薬については、保護者から1日分の備蓄が必要ではないかという意見もいただいた。今年度は、初めての試みであったので、準備が定着した上で、備蓄量については、最大1週間分の準備を検討していく。
		活動計画	活動計画の実施状況			
		① 医療的ケアの実施にあたって担任との共通理解（年度当初に1回以上） ② 医療的ケアワーキンググループ（月1回以上） ③-1 インテンシ期当会（7月、12月） ③-2 緊急対応訓練（全学部2事例） ③-3 救急法実技研修（動画を活用した自己研修） ④-1 環境衛生検査 ④-2 プール清掃、水質管理 ⑤ 感染症予防研修 ⑥ 災害時の薬の準備（年3回希望調査を行い、同時に薬の使用期限も確認する）	①年度初めに担任・看護師・養護教諭で医療的ケアの実施について話し合った。また、必要に応じてその都度共通理解を図っている。 ②医療的ケアワーキンググループを月1～2回実施し、医療的ケアの実施状況について確認している。 ③-1 事故防止や緊急対応の研修を予定どおり実施した。 ③-2緊急対応訓練は、実施しなかったが、他の検査は予定どおり実施した。 ④資料提供をしていただき、各自で研修した。 ⑥災害時の薬を整備し、学期ごとに予定どおり再確認した。			